



東地中海地域ニュース

レバノン：ヒズボラ向け武器を搭載したイラン機の墜落 (8月3日付「ロリアン・ルジュール」紙)

現地発行の仏語紙ロリアン・ルジュールは、「爆発したイランのツポレフ機は、ヒズボラ向け武器を搭載していた」と題して、イタリア紙の記事を引用して報道している。概要以下のとおり。

1. イタリアのコリエーレ・デラ・セータ紙は、週末、テヘランとアルメニアのエレバン間を結ぶツポレフ機の墜落に関する記事を掲載した。それによると、同機はレバノン南部のヒズボラに引き渡される起爆装置と爆薬を輸送していた。
2. 「7月15日に168名の乗客を乗せて墜落したツポレフ型イラン機に何が積まれていたのか。中東筋は、同機には貨物として高性能の起爆装置が積まれており、その幾つかが爆発したために墜落した。航空管制責任者は、離陸16分後に非常事態の発生を告げた。暫くして、同機はおそらく緊急着陸を試みてガズビーン州に墜落した。」

同機は、乗客の荷物以外に、爆薬2kg及び電気装置からなる最新式起爆装置が入った金属ケースを多数積載していた。原因は不明だが、その幾つかが機上で爆発した。目撃者によれば、墜落の直前に一連の爆発音を聞いている。同機により起爆装置はアルメニア、トルコ経由、シリアへ輸送され、シリアから陸路でレバノンに輸送されることとなっていた。同起爆装置は、ヒズボラに宛てたもので、目立たなくするために意図的に遠回りの経路で輸送されていた。

3. トルコ当局は武器のトランジットを阻止してきた。トルコ南部でクルド独立派が列車を襲撃した際、ヒズボラ宛のミサイルが積載されていたことが判明した。ツポレフ機による輸送はパスダラン(革命防衛隊)の特別部門によって行われた模様で、犠牲者のなかには目的地までの輸送と引き渡しの責任を負う革命防衛隊の幹部一名が含まれていた。墜落現場に治安機関及び打ち上げ関係者の姿が見られたのは偶然ではない。レバノンからの情報によれば、計画では、これらの起爆装置をレバノン南部のヒズボラの武器集積所のひとつに隠匿することが予定されていた。しかし、キルベト・サレムの武器庫が爆発してしまったので、イランはレバノン北部に起爆装置を隠すことを了解した。
4. リタニ川以南に禁止されている武器が存在することにより、過去数か月、ヒズボラとイタリア兵を含むUNIFILの間の緊張が高まった。4月末にはUNIFILのスペイン部隊が、ラブアル・タラチネ村で疑わしい場所を発見し、写真撮影を開始した。これに対して、数十人の民間人 - 実際には、制服を着替えたヒズボラ民兵 - が直ちに反応し、部隊を取り囲んだ。同様の事件は1月にも起こっており、リタニ川以南で地下弾薬庫を発見した仏部隊が民間人の服装をした民兵により攻撃された。